

令和元年度8・9月号 (No.5)

世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人



植竹中だより

さいたま市立植竹中学校 学校教育目標：「ひと」とともに生きる生徒の育成

『ひと』とともに生きる生徒の育成

～進みゆく世界に向かって～

校長 福島 博子

2学期が始まりました。職員玄関を入ると教育長賞に輝いた3年生 W さんの「進みゆく世界に向かって」と題された1メートルを超える大型サイズ(F50号)の絵が迎えてくれます。ちなみにこの絵は、全国美術部展へも出品される予定と伺っていますが、毎日その絵の前で足がとまってしまうほど魅せられているのは、「制服姿の生徒が軽々とビルや海を超えて歩いていく」様子が947名の植竹中生に重なって見えることも理由の一つかもしれません。



この夏も多くの植竹中生の活躍に魅せられた夏でした。まず、運動部では、県大会団体準優勝を飾った男子テニス部の活躍から目が離せませんでした。猛暑の中、タオルと日傘を握りしめながら、先生方や多くの保護者の皆様と一緒に応援した「関東大会」では、強豪校を「ねばりのテニス」で次々と打ち破る選手たちの雄姿はもちろんのこと、「チーム植竹応援団」の素晴らしさに心打たれました。「『この応援で勝たせたい』という気持ちで選手と一緒に戦っています。」との言葉どおり、選手と応援団が一体となった戦いぶりでもなんと関東大会でベスト8という素晴らしい結果も残してくれました。ソフトボール部も市夏季大会で優勝しました。個人戦では、水泳部、卓球部も見事関東大会に駒をすすめ、陸上部、ギター部は、全国大会出場の栄誉を得ました。

また、8月19日に開催された「さいたま市いじめ防止シンポジウム」では、本校からは、生徒会のメンバーだけでなく、演劇部もご招待いただき、「夏芙蓉」という題の演劇を披露しました。市民会館おおみやの満席の会場がハッと息をのむような迫真の演技から、「色々なことがあるのが人生だけれども、それでも前を向いて進んでいく」という力強いメッセージを受け取り、私は涙を抑えることができませんでした。

この夏、生徒の皆さん一人ひとりの、947通りの「活躍」があったことと思います。特に3年生は、自らの進路に向かって「勉強の夏」となった人も多いのではないかと思います。季節は秋へと向かい、今年度も後半へと移っていきます。

変化の激しい時代にあって、まさに本校玄関の絵画「進みゆく世界に向かって」のように、2学期も一人ひとりが、ひるむことなく、未来の創り手として輝き、「自らの足跡」を確認する学期であってほしいと願います。

保護者・地域の皆様におかれましては、この夏も様々な場面で本校へのご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。今学期も本校教育活動へのご支援・ご協力の程お願い申し上げます。